

# News Release

報道関係者各位  
2023年10月30日

## マニユライフ生命、「未来を楽しむ終身保険」に日米株式エンハンス運用型特別勘定を追加

### ● 運用スタイルに合わせた選択が可能に

マニユライフ生命保険株式会社(取締役代表執行役社長兼 CEO:ブノワ・メスレ、本社:東京都新宿区、以下「マニユライフ生命」)は、11月1日より通貨選択型変額終身保険(積立利率更改型定額部分付)「未来を楽しむ終身保険」に、新たに特別勘定として「日米株式エンハンス運用型(米ドル・豪ドル)」を追加し、幅広いお客さまのニーズにお応えできるよう商品を強化します。

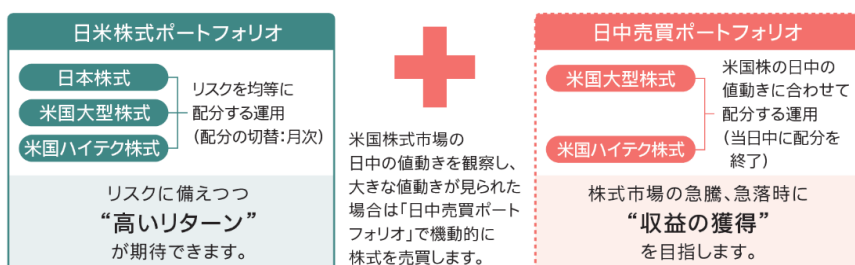
人生100年時代における老後生活への備えとして、生命保険商品においても、万が一の場合の保障のため、より柔軟な資産形成機能を持つ商品を求められるお客さまが増えています。「未来を楽しむ終身保険」は外貨で運用し、運用成果に応じて定期的に引き出して使う、もしくは運用成果を円建てで確保することのできる一時払いの通貨選択型変額終身保険で、多くのお客さまにご好評いただきました。

今回、変額部分を運用する特別勘定として、これまでの「世界バランスI型(米ドル・豪ドル)」に加え、新たに「日米株式エンハンス運用型(米ドル・豪ドル)」を追加することで、お客さまの多様な運用スタイルに合わせた選択が可能となりました。

### 「日米株式エンハンス運用型(米ドル・豪ドル)」

#### 資産構成

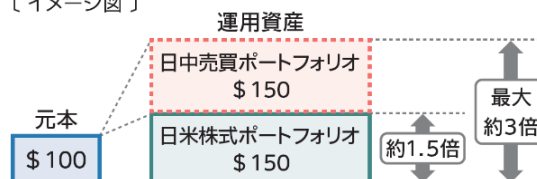
日米株式ポートフォリオと、リスクヘッジと収益向上を目的に米国の株式市場が開いている日中の値動きに合わせた配分・運用をする日中売買ポートフォリオを組み合わせ運用します。各資産の配分には、先物取引を用います。



#### 運用方法

日米株式ポートフォリオに約1.5倍のレバレッジをかけて運用します。米国株式市場に大きな値動きが見られた場合には日中売買ポートフォリオを構築し、最大で約3倍のレバレッジ\*をかけて運用します。

〔イメージ図〕



\*レバレッジ取引により、大きな損失が生じるリスクがあります。変額部分がゼロになる可能性はありますが、それ以上マイナスになることはなく、定額部分に影響はありません。

すでにご契約いただいているお客さまについては、2023年11月1日より特別勘定間における積立金の移転(スイッチング)が可能になります。

### 「未来を楽しむ終身保険」の特別勘定

特別勘定名		運用方針
既存	世界バランスI型 (米ドル・豪ドル)	株式投資の魅力度に応じ、「株式」と「資産分散」へ投資配分を切り替えるポートフォリオのリターンとして算出される参照指数に連動する債券に投資し、中長期的に安定的な特別勘定資産の成長を目指します。
新規追加	日米株式エンハンス運用型 (米ドル・豪ドル)	主に、日本および米国の株価指数に約1.5倍のレバレッジをかけて投資し、中長期的な特別勘定資産の成長を目指します。 さらに米国株式市場の日中の急落または急騰時に機動的に日中売買戦略を活用し収益の最大化を目指します。

「未来を楽しむ終身保険」の詳細については「別紙」および当社ウェブサイトをご確認ください。

マニユライフ生命は、資産形成(ウェルス)・ソリューション・スペシャリストとして、人生100年時代におけるお客さまのライフステージに応じたリスクに対する保障や資産形成ニーズにお応えするために、魅力的な価値提案を行なってまいります。退職後の生活への不安や課題解決のためのソリューションの提供をはじめ、お客さまがより長く、より健康的な生活を送るための保障、資産形成、相続といったさまざまなニーズに、引き続きお応えしていきます。

#### マニユライフ生命について

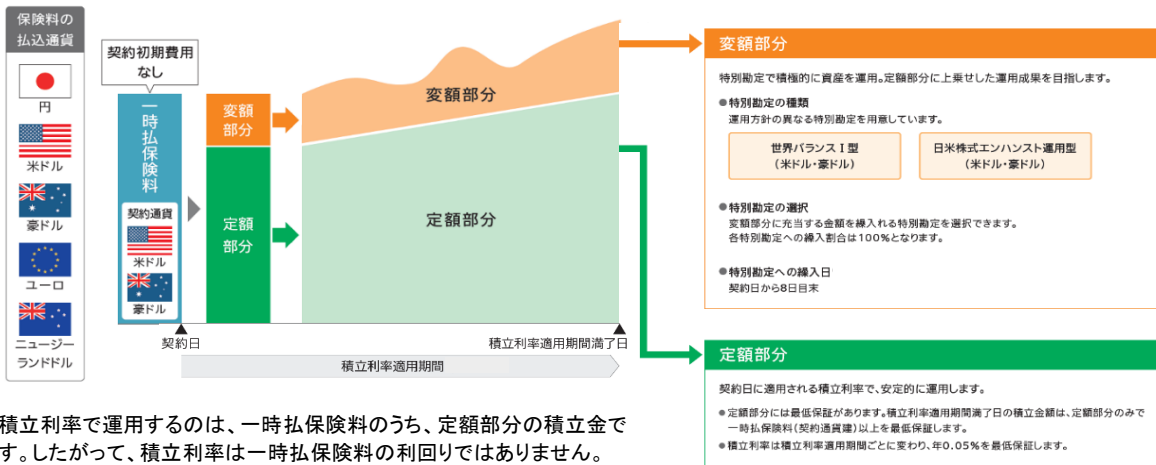
マニユライフ生命は、カナダを本拠とする大手金融サービスグループ、マニユライフ・ファイナンシャル・コーポレーション(マニユライフ)のグループ企業です。お客さまがより簡単に最適な保障を選択し、より良い毎日を送るためのお手伝いをします。公式ウェブサイト([www.manulife.co.jp](http://www.manulife.co.jp))をご覧ください。

## 【別紙】

### 「未来を楽しむ終身保険」について

「未来を楽しむ終身保険」は、一時払保険料(契約通貨建て)を積立利率により増加する定額部分の積立金と、特別勘定の運用実績によって変動(増減)する変額部分の積立金に分けて運用するしくみの一時払終身保険です。運用は契約通貨(米ドルまたは豪ドル)で行います。

〔イメージ図〕



最初の積立利率適用期間が満了した日の定額部分の積立金額は、契約時に選択された一時払保険料最低保証割合に基づいて契約通貨建てで最低保証<sup>\*1</sup>され、「変額部分」でプラス $\alpha$ の運用成果を期待することができます。万一の場合の死亡保険金は基本保険金額<sup>\*2</sup>(契約通貨建て)の100%を最低保証<sup>\*1</sup>します。また、円建の目標額を設定し、目標額に到達したら「円」で運用成果を確保できる「ターゲットタイプ」と、「変額部分」の毎年の運用成果に応じて定期引出金(契約通貨建て)を受取る「定期引出タイプ」の、2つのタイプからお選びいただけます。

<sup>\*1</sup> 最初の積立利率適用期間満了日の積立金額および死亡保険金は、契約通貨建てで最低保証されています。そのため、円に換算した場合、為替レートによってはお払い込みいただいた金額の円換算額(円でお払い込みいただいた場合はその金額)を下回り、元本割れする可能性があります。

<sup>\*2</sup> 基本保険金額は、死亡保険金をお支払いする際に基準となる金額で、一時払保険料と同額になります。

### リスクについて

この保険は、特別勘定の運用実績や解約時の市場金利、為替相場の変動などの影響を受けます。また、契約通貨建てで最低保証されている金額が、為替相場の変動により、円建では元本割れする可能性があります。これらのリスクは契約者または受取人が負います。

### 元本割れリスク

この保険には次のリスクがあり、損失が生じるおそれがあります。

種類	原因	内容
運用リスク	特別勘定の運用実績*による株価や債券価格の下落、為替の変動等	積立金額や解約返戻金額が一時払保険料を下回ることがあります。
解約リスク	● 市場価格調整 ● 解約控除	解約返戻金額が一時払保険料を下回ることがあります。
為替リスク	外貨での運用による為替相場の変動	保険料の払込通貨で換算した死亡保険金額等が、お払い込みいただいた金額を下回ることがあります。

\*特別勘定での資産運用には、主に次の投資リスクがあります。スイッチングをした場合、選択した特別勘定によって基準となる指標やリスクの種類が変わります。

- ① 価格変動リスク
- ② 金利変動リスク
- ③ 為替変動リスク
- ④ 信用リスク(指数連動債券に投資するため、発行体等の信用リスクを含む)
- ⑤ カントリーリスク

## 費用について

### 保険関係費

#### ■定額部分

内容	費用	控除時期	方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 死亡保険金の最低保証のための費用</li> <li>● 保険契約の締結・維持に必要な費用</li> </ul>	マニユライフ生命が定めた金額	積立利率の決定時	マニユライフ生命が定めた利率からあらかじめ差し引く

#### ■変額部分

内容	費用	控除時期	方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 死亡保険金の最低保証のための費用</li> <li>● 保険契約の締結・維持に必要な費用</li> </ul>	年率 1.85%*	毎日	左記の年率の 1/365 を乗じた金額を変額部分の積立金から控除

\*特別勘定の資産総額に対してかかる費用

### 運用関係費(特別勘定の運用にかかわる費用)

#### ■変額部分

特別勘定	費用	控除期間	方法
世界バランス I 型 (米ドル・豪ドル)	レバレッジ取引にかかる費用がかかります。 くわしくは「金融派生商品の取引にかかる費用の内訳」をご確認ください。	年率 0.10%* <sup>1</sup>	毎日
			左記の年率の 1/365 を乗じた金額を指数連動債券の価格において控除
日米株式エンハンス運用型 (米ドル・豪ドル)	極端な市場環境のリスクヘッジに必要となる費用がかかります。 くわしくは「金融派生商品の取引にかかる費用の内訳」をご確認ください。	年率 0.65%* <sup>2</sup>	毎日
			左記の年率の 1/365 を乗じた金額を指数連動債券が参照する参照指数の計算において控除

<sup>1</sup> 特別勘定の投資対象となる指数連動債券の純資産総額に対してかかる費用(管理費用)

<sup>2</sup> 特別勘定の投資対象となる指数連動債券が参照する参照指数値に対してかかる費用(参照指数の管理費用)

※上記の管理費用(\*1、\*2)以外に金融派生商品の取引にかかる費用等がかかります。これらの費用は特別勘定が保有する債券の価格等から負担するため、基準価格に反映されます。したがって、お客さまが間接的に負担します。

### [ 金融派生商品の取引にかかる費用の内訳 ]

#### 世界バランス I 型(米ドル・豪ドル)

- レバレッジ取引にかかる費用:特別勘定の投資対象となる指数連動債券の純資産総額を最大約 3 倍に増やした実質運用資産に対して年率 0.70%以内
- 参照指数の構成要素に配分する際に必要となる取引費用等、実質的に有価証券等を売買・保有することに伴う費用

#### 日米株式エンハンス運用型(米ドル・豪ドル)

- 極端な市場環境のリスクヘッジに必要となる費用:特別勘定の投資対象となる指数連動債券の純資産総額を最大約 3 倍に増やした実質運用資産に対して年率 0.35%
- 参照指数の構成要素に配分する際の有価証券等の売買や保有にかかる費用等

### 解約控除

内容	費用	控除時期	方法
契約日から最初の積立利率適用期間満了日までの解約または円建終身保険への移行にかかる費用	基本保険金額 × 解約控除率	解約計算基準日	次の①②の合計金額から控除 ① 定額部分の積立金額に市場価格調整率を乗じた金額 ② 変額部分の積立金額

※円建終身保険への移行後は、解約しても解約控除はかかりません。

### 解約控除率

積立利率適用期間および契約日からの経過年数に応じて決まります。

〔積立利率適用期間 10年の場合〕

契約日からの経過年数	解約控除率
1年以内	10.0%
1年超～2年以内	9.0%
2年超～3年以内	8.0%
3年超～4年以内	7.0%
4年超～5年以内	6.0%
5年超～6年以内	5.0%
6年超～7年以内	4.0%
7年超～8年以内	3.0%
8年超～9年以内	2.0%
9年超～10年以内	1.0%
10年超	0.0%

〔積立利率適用期間 15年の場合〕

契約日からの経過年数	解約控除率
1年以内	10.0%
1年超～2年以内	9.3%
2年超～3年以内	8.7%
3年超～4年以内	8.0%
4年超～5年以内	7.3%
5年超～6年以内	6.7%
6年超～7年以内	6.0%
7年超～8年以内	5.3%
8年超～9年以内	4.7%
9年超～10年以内	4.0%
10年超～11年以内	3.3%
11年超～12年以内	2.7%
12年超～13年以内	2.0%
13年超～14年以内	1.3%
14年超～15年以内	0.7%
15年超	0.0%

### 為替手数料

内容	費用	控除時期	方法
一時払保険料を契約通貨と異なる外貨で払込む際にかかる費用	50 銭 〔為替レート〕 契約通貨の TTM÷ (保険料の払込通貨の TTM-50 銭)	両替時	為替レートに含んで控除
保険料円入金特約 B 型を付加して、一時払保険料を円で払込む際にかかる費用	50 銭 〔為替レート〕 TM+50 銭		
● 円支払特約 D 型を付加して、死亡保険金等を円で支払う際にかかる費用 ● 変額部分積立金定期引出特約および円支払特約 D 型を付加して、定期引出金を円で支払う際にかかる費用	米ドル:1 銭 豪ドル:3 銭 〔為替レート〕 米ドル: TTM-1 銭 豪ドル: TTM-3 銭		
● 円支払特約 D 型を付加して、解約返戻金を円で支払う際にかかる費用 ● 目標到達時円建終身保険移行特約を付加して、円建終身保険への移行時に、解約返戻金額を円に換える際にかかる費用	50 銭 〔為替レート〕 TM-50 銭		

\*「保険料円入金特約 B 型」以外の「保険料の払込通貨に関する特約」を付加します。

※2023 年 10 月現在。為替手数料は、将来変更することがあります。

※一時払保険料を外貨で払込む際、取扱金融機関への振込手数料がかかる場合があります。また、死亡保険金等を外貨で受取る際、金融機関によってはリファイティングチャージ等の手数料がかかる場合があります。くわしくは取扱金融機関にご確認ください。

### スイッチング手数料

内容	費用	控除時期	方法
1 保険年度に 13 回以上スイッチングした場合の費用	米ドル:1 回あたり 25 米ドル 豪ドル:1 回あたり 25 豪ドル	スイッチング時	移転先の特別勘定の変額部分の積立金から控除

ご契約の検討・お申込みに際しては、「商品パンフレット」、「契約締結前交付書面(契約概要／注意喚起情報)」、「ご契約のしおり／約款」、「特別勘定のしおり」、「設計書」もあわせてご覧ください。契約者が法人となる場合は、「法人向け保険商品のご検討に際してご留意いただきたいこと」もご覧ください。